

自ら問題を見出し、自ら学び、生き方を考える子供を目指して

6年

『「福祉」をテーマに学習しよう』の実践

小平町立鬼鹿小学校 濱野 陽子、永沼慧久男

◆単元のポイント

○発想の始まりは、子供に身に付けさせたい力

この単元は、子供にどのような力を身に付けさせるかを、まずしっかりと決めることから発想しています。変化の激しい、複雑な社会を主体的に生きていく子供を育成するため、生き方を考えることも含めた、学び方やものの考え方を身に付けさせることを中心に単元を構成しています。

○学習対象は、現実社会である地域

子供は、本来、現実社会の中で、人とかかわり方や思いやりなどの社会性を身に付け、生き方を考えながら、人間形成をしていくと考えます。

「総合的な学習の時間」のねらいである「生き方を考える」には、子供が社会と初めてかかわる地域から学ぶことが必要と考えました。そこで、地域の特色であり、今日的な課題である「福祉」を課題とし、地域素材を活用しています。

○学習方法は、問題解決的な学習

「福祉」をテーマに、学び方やものの考え方を身に付けさせるためには、その力を育成する場面を設けた問題解決的な学習を行うこととしました。学習活動では、子供自身が身に付けるべき力を理解し、主体的に活動が行え、自分の変容を自己評価できるような工夫を図ることとしました。



◆単元目標

- 問題解決的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付けようとする。
- テーマにそって、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。
- 問題解決のために地域、人とかかわり、交流し、必要な情報を収集、まとめ、自分の考えをもち、それを効果的に表現することができる。
- 小平町の特色であり、今日的な課題である「福祉」について問題意識をもち、多面的にとらえることができる。

◆単元の構想（16時間扱い）

「福祉」をテーマに学習しよう

学 習 活 動	学習場面	教 師 の 支 援
○問題を見付け、問題意識をもつ。	問題場面	○町中での車椅子歩行体験で、問題に気付かせる。
○問題を深め、学習問題に近付ける。	問題把握	○体験で気付いた問題を、みんなで交流させる。
○単元のねらい、学習内容 学習方法などをとらえる。	オリエンテーション	○「福祉」と、学び方を学ぶことを理解させる。
○テーマにそって、学習問題、学習計画をつくる。	計画作成	○自ら学習問題・計画をつくれるよう支援する。
○人とかかわり、必要な情報を収集する。	追究解決	○人とかかわり方、情報収集の仕方を支援する。
○追究したことをまとめ、表現する。	まとめ・表現	○自分の考え・感想、今後の課題も表現させる。
○学んだことを交流し、深める。	発表・交流	○成果の交流で「福祉」を多面的にとらえさせる。
○学習したことを振り返り 今後に生かそうとする。	評価・発展	○生き方や学び方を振り返らせ、課題をもたせる。

◆実践するにあたって

この実践では、単元の導入で子供の学習意欲を喚起し、関心を「福祉」に導くことや、子供自身が「総合的な学習の時間」のねらいを理解し、「福祉」をテーマに自ら学習問題・計画を作成して、人とかかわり、情報を収集する追求活動ができることを目標としました。そのために、「問題場面」「オリエンテーション」を設定し、学習計画表の作成・活用、ウェビング法やKJ法の活用、地域の人たちとの連携など、様々な手立てを講じ、子供が主体的に活動できる学習を目指しました。

子供が学ぶことに楽しさや成就感を味わい、学びによる自分の変容を自覚し、それを楽しみ、学ぶことへの意欲がもてることで、自ら問題を見出し、自ら学び、生き方を考える子供が育成できると考えます。